



予科練平和記念館

YOKAREN PEACE MEMORIAL MUSEUM

年報

第1号

(平成21年度～平成23年度)



予科練平和記念館は、阿見町の歴史的な戦史記録を後世に伝えるため、平成8年に施設整備の方針が打ち出されてから14年の歳月をかけて、平成22年（2010年）2月2日にオープンしました。

建物の内部には窓から空を望める開放的な空間が広がり、外壁は空が映りこむ仕上げとなっており、建物の内外から大空を「感じる」ことができます。

常設展示室は、予科練の象徴とされる七つボタンの制服にちなんで7室から構成され、予科練制度の成り立ちから入隊の状況、教育内容、肉親への思いを綴った手紙類、予科練生と地域との交流、昭和20年の阿見大空襲、そして多くの予科練出身者も出撃した特攻について、資料および映像で紹介しています。

館蔵資料を検索できる機器を備え、休憩や図書閲覧のためにご利用いただく「情報ラウンジ」は無料で開放しております。

展覧会やイベントなど多様な事業を展開し、阿見町の歴史を後世に伝えるとともに、地域振興を図るため日々努めております。

【目次】

館長挨拶	・・・ 1
◆平成21～22年度活動記録	
「予科練平和記念館について」	
1. 開館までの道のり	・・・ 2
2. 予科練平和記念館設立趣旨	・・・ 2
3. 予科練とは	・・・ 2
4. 予科練平和記念館の特徴	・・・ 3
5. 館内	・・・ 3
6. 展示概要	・・・ 4
「平成21～22年度予科練平和記念館事業報告」	
1. 運営事業について	・・・ 5
2. 展示事業	・・・ 7
3. 教育普及事業	・・・ 7
4. 広報事業	・・・ 8
5. 寄付金の状況について	・・・ 8
6. 資料収集状況について	・・・ 8
7. 予科練平和記念館歴史調査員の活動について	・・・ 9
8. その他	・・・ 9
◆平成23年度活動記録	
「平成23年度予科練平和記念館事業報告」	
1. 運営事業について	・・・ 10
2. 展示事業	・・・ 12
3. 教育普及事業	・・・ 14
4. 広報事業	・・・ 17
5. 資料収集・調査研究事業	・・・ 18
6. 予科練平和記念館歴史調査員の活動について	・・・ 19
7. その他	・・・ 19
8. アンケート結果	・・・ 20
◆参考資料「予科練平和記念館解説シート」	・・・ 22
◆参考資料「若鷺の歌」	・・・ 27
◆参考資料「予科練平和記念館建築概要」	・・・ 28

ご挨拶

平成22年（2010年）2月の開館以来、今年は3年目を迎えております。

「予科練平和記念館」は阿見町の貴重な歴史遺産である予科練、旧海軍航空隊や当町の戦史記録を保存・展示するとともに、次の世代へ精確に伝承し、「命の尊さ」「平和の大切さ」を考えていただくための施設として、一層の充実に取り組んでおります。

常設展示では、展示内容をより理解していただくために展示解説員がご案内しております。また、アンケートに書かれた、あるいは来館者から直接いただいたご意見、ご要望を取り入れながら、所蔵資料展・特別展等を開催し、教育普及活動・イベントも実施しております。さらには、資料館として資料収集を行うとともに、予科練や地域の戦史調査等を引き続き行ってまいります。

こうした活動を通じて、児童・生徒の平和学習、社会科学習はもちろんのこと、広く社会教育の場として役割を果たすことで、地域の文化向上はもとより、世界の恒久平和実現に寄与してまいりたいと考えております。

あわせて、地域振興の拠点として「予科練平和記念館」を全国に発信し、その時々で魅力ある情報提供が行えるような館運営に邁進いたします。

今後も、皆様のご支援・ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成 24 年 10 月

予科練平和記念館

館長 加藤 力男



平成 21 年度 ～ 平成 22 年度

(2010 年 2 月 2 日～ 3 月 31 日)

(2010 年 4 月 1 日～ 2011 年 3 月 31 日)

予科練平和記念館について

1. 開館までの道のり

- 平成 8 年 阿見町の地域振興・発展を図る観点から、町に残る歴史的遺産や戦史を伝承・記録する
(1996 年) ための予科練平和記念館を含めた公園整備方針を打ち出す。
- 平成 10 年 霞ヶ浦湖岸公園構想の策定。霞ヶ浦がもつ自然環境を保全し、魅力ある水辺の環境を創造すること、また、戦争史の具体的な記録を後世に残し、平和について学び伝えることができる霞ヶ浦湖岸公園等の整備を図るため、陸上自衛隊武器学校隣接地から大室ストックヤードまでの約 40ha の整備構想を策定。
- 平成 13 年 予科練史編纂事業を進め「阿見と予科練」を発刊。
- 平成 15 年 霞ヶ浦平和記念公園基本計画を策定。
- 平成 16 年 霞ヶ浦平和記念公園のうち、廻戸地区近隣公園について事業実施。
- 平成 17 年 記念館展示・建築基本設計策定。(事業の見直しを行い、記念館の整備完了を平成 19 年度から 21 年度に延期する)
- 平成 19 年 廻戸地区近隣公園供用開始。予科練平和記念館実施設計策定。
- 平成 20 年 予科練平和記念館建設工事着手。
- 平成 21 年 予科練平和記念館完成。
- 平成 22 年 予科練平和記念館開館。

(2010 年 2 月 2 日)



2. 予科練平和記念館設立趣旨

阿見町には大正時代に霞ヶ浦海軍航空隊が開設され、昭和 14 年(1939 年)に飛行予科練習部、いわゆる「予科練」が神奈川県横須賀から移転し、翌年土浦海軍航空隊として再編成されると、阿見町は終戦まで全国の予科練教育の中心的役割を担うこととなりました。海軍の町として近代を歩んできた阿見町は、日本が太平洋戦争終結までに経験した戦争および平和に関する忘れ得ない歴史的事柄を、その風土に多く刻んでいます。このように、阿見町そして予科練の貴重な資料を保存・記録するとともに展示を行いながら、次世代に歴史を正確に伝承し、命の尊さや平和の大切さを考えていただく施設として予科練平和記念館は建設されました。

3. 予科練とは

「海軍飛行予科練習生」およびその制度の略称です。第一次世界大戦以降、航空機需要が世界的に高まり、欧米諸国に遅れまいと旧日本海軍が昭和 5 年(1930 年)から開始したものです。より若いうちから基礎訓練を行い熟練した搭乗員を多く育てようと、14 才から 17 才までの少年を全国から試験で選抜しました。予科練の制度が始まってから終戦までの 15 年間で約 24 万人が入隊し、そのうち約 2 万 4 千人が予科練を卒業した後、飛行訓練を経て戦地へ赴きました。戦死者はその 8 割にあたる約 1 万 9 千人にのぼり、特別攻撃隊として出撃した隊員も多く含まれます。

4. 予科練平和記念館の特徴

(1) 土門拳がとらえた予科練



昭和を代表する写真家・土門拳が、旧海軍省の要請により昭和19年（1944年）土浦海軍航空隊に泊まり込んで撮影した写真42枚を収蔵・展示しています。戦後、撮影された写真はほとんど焼却されましたが、持ち主の予科練生が終戦当時に入院中だったため、奇跡的に処分を逃れたものです。予科練平和記念館では、予科練生の実像を知る貴重な資料として展示しています。

(2) 空を感じる空間

予科練平和記念館は「空」を感じてもらうことを大切にしています。昔も今も変わらぬ空の風景から、当時の少年たちの気持ちや平和な現在の世界を感じ取れる空間を目指しました。



5. 館内

(1) 館内案内

予科練平和記念館は予科練の「七つボタンの制服」をモチーフに、7つの空間から構成された常設展示室と、企画展示や様々な交流活動を展開する「20世紀ホール」、休憩や図書閲覧できる「情報ラウンジ」があります。



(2) 七つボタンと7つのテーマ

予科練志望者の憧れであった「七つボタン」は、世界の7大陸・7大洋を象徴したもので、世界中の大空を駆け巡り活躍

するように、という大きな期待がこめられています。予科練の代名詞とされ、大空を目指した当時の少年たちの憧れ「七つボタン」にちなみ、入隊から特攻にいたる7つのテーマによるストーリーを設定し、施設全体を構成しています。

6. 展示概要

1 入隊

「募集」「志願」という二つの側面から、応募から入隊までの少年たちの揺れ動く心情を明らかにし、予科練を目指した時代的背景や制度の変遷を解説・展示しています。



2 訓練

予科練での厳しい訓練の様子や、生活の風景などを当時の取材に基づくイラスト、写真や資料などで紹介し、航空兵を目指して時代を駆け抜けた予科練習生の実像に迫る展示をしています。

3 心情

手紙や日記、手記などをもとに、希望と不安の中で日常を過ごしつつ、訓練に明け暮れた少年たちの「思い」に触れることで時代を経てもなお色褪せぬ「心情」を紹介しています。



4 飛翔

予科練を卒業後、飛行練習過程や実用機教程を経て戦地へ飛び立って行った予科練出身者の活躍について、また一方で、思い半ばにしてやってきた様々な悲劇などを紹介しています。

5 交流

戦時下の苦しい状況の中でもたくましく生き、予科練習生の厳しい訓練を陰から支えた阿見の人々。その交流の軌跡を、戦時下の暮らしを物語る資料と対比させながら紹介しています。



6 窮迫

戦局の悪化によって本土空襲が現実のものとなり、阿見に住む人々も味わうこととなった恐怖を、臨場感あふれるシアター映像と空襲にまつわる資料、証言によって紹介しています。

7 特攻

多くの予科練生が犠牲となった「特攻」作戦。予科練出身の戦死者を暗示する光に包まれた展示室で、予科練と特攻作戦の関わりについて紹介しています。



平成 21 ～ 22 年度予科練平和記念館事業報告

1. 運営事業について

(1) 開館日数

286 日（毎週月曜日、年末年始休館、資料燻蒸（4 日）、地震による臨時休館 17 日）

(2) 入館者及び観覧料

年 度	開館日数	入館者	日平均(人)	観覧料(円)	備 考
H21	50	18,032	361	7,384,150	
H22	286	76,313	267	29,173,692	
合計	336	94,345	281	36,557,842	

(3) 入館者内訳

年 度	有料 観覧者	(有料のうち 教育活動)	無料入館者	(無料のうち町 内小中生)	無料 エリア	計
H21	15,568	65	2,072	287	392	18,032
H22	67,563	672	7,116	1,191	1,634	76,313
小計	83,131	737	9,188	1,478	2,026	94,345

(4) 主な来館団体（～ H22）

項 目	件数	人数	備 考
親睦団体	273	6,148	個人、職場、地域等の親睦団体(山形・岩手など)
高齢者クラブ	112	3,688	県内、近県から(長野県、静岡県など)
農業団体	87	2,613	県内、近県から JA 関係(年金友の会など)
観光ツアー	57	1,992	クラブツーリズム、山交観光(株)
自衛隊関係	56	1,644	自衛隊協力会、父兄会、後援会など
公民館	53	1,858	高齢者教室、歴史教室など
遺族会	45	2,234	靖国神社経由が多い。青森県、長野県など
生涯学習団体	38	958	郷土史研究会、史跡めぐりの会
自衛隊	34	1,080	入間基地、熊谷基地、高射学校など
小学校	16	776	町内、私立リリーバール小学校、稲敷市鳩崎小など
中学校	16	890	町内、常総学院中、霞南至健中など
その他	416	11,168	
計	1,203	35,049	

(5) 館内アンケート（～ H22）

① 総数 2,927人 回収率 3.1%

② 主な内容

- 1) 展示内容について 「満足」 69%、「やや満足」 26%、複数回の来館者 7%
- 2) 居住地 町内 13%、 県内 54%、 県外 33%
- 3) 自由意見

(ア) 印象に残った展示は？

- ・「全てがよい」という意見が多数。
- ・「展示室7特攻」「展示室6窮迫」が多数だが、その他の展示室でも当時の状況の分かる展示や実物資料が良かったという意見多数。

(イ) 今後どのようなテーマの特別展、企画展があったらよいか？

- ・実物の飛行機（赤トンボ・零戦など）を展示してほしい。
- ・出身者や体験者の生の話を聞きたい。または証言映像を見たい。
- ・他の類似資料館との共同企画や平和をテーマとした企画。
- ・特攻、手紙、映像資料などをもっと多くしてほしい。

(ウ) その他のご意見、ご要望は？

- ・知られていないので、広くPRをすべき。
- ・小中高生など若い世代にもっと見てもらいたい。
- ・阿見町や土浦市などの近隣に住んでいながら海軍の歴史や阿見大空襲のことなどを始めて知った。
- ・平和の大切さを改めて感じた、考えさせられた、など。
- ・館内施設の改善（イスを設置、映像が見づらい、文字が小さい、照明が暗いなど）
- ・館の運営について（入館料の工夫、職員数など）

(6) 書籍販売

年度	阿見と予科練	予科練ものがたり	続・阿見と予科練	ガイドブック	カルタ	計	販売金額(円)
H21	101	541	123	0	0	765	826,700
H22	166	757	118	1,082	40	2,163	1,362,300
小計	267	1,298	241	1,082	40	2,928	2,189,000

2. 展示事業

(1) 第1回所蔵資料展 「艦船・飛行機模型、絵画展」 平成22年2月2日～9月13日

模型展示 艦船模型、飛行機模型
絵画 97式艦上攻撃機、零戦52型

(2) 第2回所蔵資料展 「戦後の予科練」 平成22年9月14日～平成23年2月27日

第一部 陸上自衛隊武器学校（旧土浦海軍航空隊）にある予科練記念館「雄翔館」と、予科練之碑「予科練二人像」のある庭園「雄翔園」建設に関する資料や、予科練同期の集まりに関する資料を約25点展示しました。

第二部 予科練生が描いた油絵や、作り続けた艦船の模型など約40点を展示しました。



3. 教育普及事業

(1) 元予科練生の体験を聞く会

- ① 第1回 戸張礼記氏（甲飛14期）
8月7日 10時～、14時～ 参加者130名
- ② 第2回 仲川武男氏（乙飛20期）
8月22日 10時～、14時～ 参加者150名



(2) 映画会

「決戦の大空へ」 平成22年10月3日 場所：かすみ公民館 鑑賞者140名

(3) 演劇鑑賞会

演題「白雲ととどまりて」
県立竹園高校演劇部
平成22年10月3日 14時～
場所：かすみ公民館 鑑賞者170名

(4) レコード鑑賞会

昭和初期のレコードを当時の蓄音機で鑑賞
平成22年10月23日、11月20日
場所：情報ラウンジ
参加者60名



(5) 出張講座

① 講演（職員） 2回

- ・水海道ライオンズクラブ定例会（平成22年5月6日）
- ・「船から霞ヶ浦を眺めよう」 主催：土浦市立博物館（平成22年11月22日）

② 講演（職員・元予科練生） 3回

- ・「予科練の体験談」つくば市立谷田部東中学校（平成22年7月1日）
- ・「予科練の体験談」県立土浦第三高校（平成22年10月12日）
- ・「予科練と呼ばれた少年たち」茨城県県南生涯学習センター（平成22年2月13日）

4. 広報事業

(1) 広報あみ

- ・毎月掲載：イベントのお知らせや事業実績等

(2) マスコミ・広報誌への情報提供

- ・記者クラブ、常陽リビング、情報誌、テレビ、ラジオへの情報提供及び出演等

(3) 観覧料の割引提携（各種カード等の提示により、割引を実施）

- ・漫遊いばらき、SDカード、とっておきナビ、町イベント等

(4) ホームページの館長日記、ブログ等による情報発信

- ・イベントのお知らせ、報告、周辺情報などを不定期に更新
- ・館長日記（14回）、ブログ（61回）、新着情報

(5) 旅行代理店契約

- ・旅行代理店3社と観光券契約（JTB、近畿日本ツーリスト、農協観光）

(6) その他

- ・高速道路観光マップ、周辺観光マップ等への掲載
- ・記念入場者レセプション（1、3、5万人）

5. 寄附金の状況について

年度	件数	金額（円）	備考
～H21	2,194	58,455,844	
H22	36	2,734,350	
小計	2,230	61,190,194	

6. 資料収集状況について

(1) 収集点数

年度	資料数	備考
～H21	11,035	
H22	1,126	
計	12,161	

(2) 主な資料

- ① 雄翔館に保管の海原会所蔵品（プロペラ、将校の礼服など）
- ② 陸軍除隊記念の杯
- ③ 昭和初期のレコードなど

7. 予科練平和記念館歴史調査委員の活動について

5名の調査委員により、予科練および海軍航空隊に関する調査研究を行う。

- (1) 活動日数 225日（週1回開催：1人45日程度）
- (2) 調査研究
 - ① 「常在戦場の碑」「霞空士官宿舎」「海軍気象学校」「飛行予備学生」に関する調査
 - ② 防空戦闘に関する調査
 - ③ 予科練・海軍航空隊年表の作成
- (3) 教育普及事業
 - ① 「予科練いろはカルタ」の発行
 - ② 講演会の実施、
 - ③ 来館者への展示案内
- (4) その他
 - ① 町生涯学習課への協力：町指定文化財の登録への協力



8. その他

(1) 東日本大震災の影響について

- ① 臨時休館 17日間（3月12日～3月31日）
- ② 被害の状況
天井パネル、壁、ダウンライトの破損
側溝、平板ブロックの破損、倉庫内書架の倒壊など
- ③ 団体客の予約取り消し
51件 2,676人（3月～7月のほぼ全ての予約がキャンセル）

(2) 各賞受賞

- ・日本ディスプレイ大賞
（社団法人 日本ディスプレイデザイン協会）
- ・日本ディスプレイ産業賞特別賞
（社団法人 日本ディスプレイ業団体連合会）
- ・JCDデザインアワーズ金賞
（社団法人 日本商環境設計家協会）

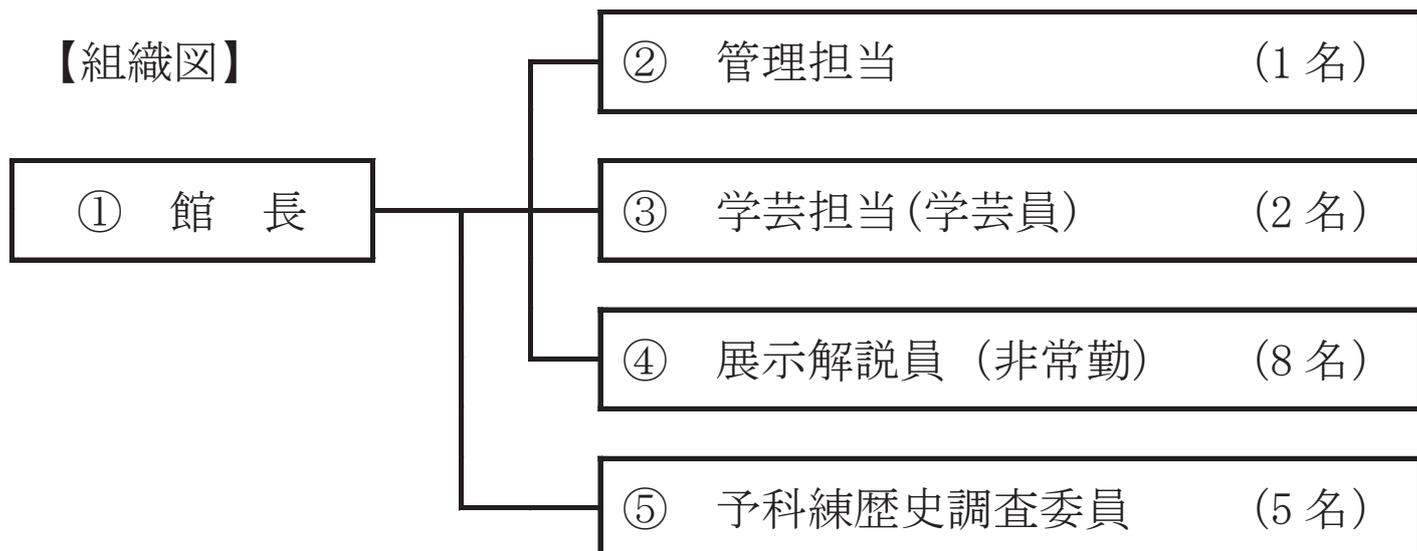
(3) 売店運営

阿見町商工会運営

年間売上げ 11,000千円



【組織図】



※その他、売店 (1 名)、清掃 (1 名)

通常、6～8 名で運営 (4 月 1 日現在)

1. 運営事業について

(1) 開館日数

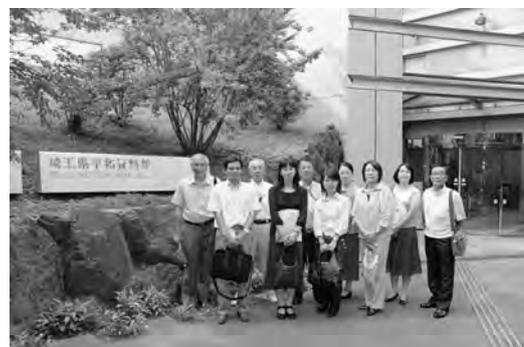
296 日 (毎週月曜日、年末年始休館、地震による臨時休館 17 日)

※ 無料観覧日の設定 3 日 (予科練戦没者慰霊祭、終戦記念日、開館記念日)

(2) 職員研修

① 類似施設視察 7 月 26 日 (火)

丸木美術館、埼玉県平和資料館を訪問し、児童生徒に対する展示の案内方法、資料作成、小中学校に対する学習支援策などを視察。



② 避難誘導、訓練救急訓練 (AED)

- ・東日本大震災後の再開館に当たっては避難誘導訓練を実施 (4 月)
- ・阿見町消防本部の指導により実施 (11 月)



(3) 入館者及び観覧料

年 度	開館日数	入館者	日平均	観覧料 (円)	備 考
H21	50	18,032	361	7,384,150	
H22	286	76,313	267	29,173,692	
H23	296	42,847	145	15,747,491	
合計	632	137,192	217	52,305,333	

(4) 入館者内訳

年 度	有料 観覧者	(有料のうち 教育活動)	無料入館者	(無料のうち 町内小中生)	無料 エリア	計
H21	15,568	65	2,072	287	392	18,032
H22	67,563	672	7,116	1,191	1,634	76,313
H23	34,421	475	6,295	663	2,131	42,847
合計	117,552	1,212	15,483	2,141	4,157	137,192

(5) 主な来館団体

項 目	件数	人数	備 考
親睦団体	88	1,739	個人、職場、地域等の親睦団体(関東甲信越・東北中心)
高齢者クラブ	71	1,084	県内、近県から
農業団体	24	608	県内、近県から JA 関係(年金友の会など)
観光ツアー	11	422	ふれあい食材大洗ツアー、お買い物ツアー
自衛隊関係	16	384	自衛隊協力会、父兄会、後援会など
公民館	33	983	高齢者教室、歴史教室など
遺族会	15	838	靖国神社経由が多い
生涯学習団体	16	378	郷土史研究会、史跡めぐりの会
自衛隊	25	481	海上自衛隊小月教育航空隊、高射学校など
小学校	10	602	町内、私立リリーベール小学校、古河市第三小など
中学校	5	434	町内、常総学院中、結城市立結城中など
その他	241	6,158	
計	555	14,111	

(6) 館内アンケート

① 総 数 864 人 回収率 2.1%

② 主な内容

1) 展示内容について 「満足」 70.2%、「やや満足」 24.9%、複数回の来館者 8%

2) 住所地 町内 12%、県内 54%、県外 34%

(館内アンケートの続き)

3) 自由意見

- ・特攻、手紙、映像資料などをもっと多くしてほしい。

(対応策) H24 年度特別展では、回天の実物大模型・コクピットを展示するほかに、回天記念館から資料を借り受けて展示を行う予定。

- ・出身者や体験者の生の話を聞きたい。または証言映像を見たい。

(対応策) H24 年度においては、講演会の実施回数を増やすこと、また収録済みの予科練出身者等映像記録を来館者が自由に閲覧できるように編集し、順次公開する予定。

- ・土門拳の写真が良かった。土門の写真を見に来た。

(効果) 土門拳の写真展により新たな客層・リピーターを呼び込んだ。

- ・予科練平和記念館はまだ広く知られていないので、もっと PR をすべき。(意見多数)

- ・小中高生(自分の子ども含め)など若い世代にもっと見てもらいたい。(意見多数)

(対応策) 事業内容を充実させることでマスコミに取材していただくとともに、関係団体・施設等を訪問し PR 活動を引き続き行っていく。

- ・平和の大切さを改めて感じた、考えさせられた、など。

- ・館内施設の改善(イスを設置、映像が見つらい、文字が小さい、照明が暗いなど)

(対応策) H24 年度においては、7 室(特攻関連の映像室)に移動式のイスを設置予定。

- ・館の運営について(入館料の工夫、職員が多いなど)

(対応策) 入館料金の設定については展示の充実を図ると共に弾力的な運用を引き続き検討する。
また、H24 年度においては、チケット販売、売店業務を記念館職員が兼務するなど、より効率的な人員配置を行う予定。

- ・予科練生名簿があればよい。

(対応策) 『予科練外史』、『特別攻撃隊全史』、寄贈名簿などを中心にデータ整理中。お客様からの問合せには随時対応している。

(7) 書籍販売

年度	阿見と予科練	予科練ものがたり	続・阿見と予科練	ガイドブック	カルタ	計	販売金額(円)
H21	101	541	123	0	0	765	826,700
H22	166	757	118	1,082	40	2,163	1,362,300
H23	46	318	42	395	52	853	540,000
合計	313	1,616	283	1,477	92	3,781	2,512,000

2. 展示事業

(1) 特別展事業

第 1 回特別展「土門拳のまなざし一戦中・戦後と“幻”の写真」

多彩な土門の作品の中から、「昭和」という時代を色濃くとらえた写真 30 点を展示するとともに、

財団法人土門拳記念館（山形県酒田市）・予科練平和記念館に分散して収蔵されている土浦海軍航空隊の予科練習生の写真をあわせて展示することで、“幻”と呼ばれた予科練の写真の位置付けを明らかにします。

- ・日 時 平成 23 年 7 月 28 日（木）～
10 月 30 日（日）
[公開 82 日間]
- ・展示写真点数 30 点（すべて土門拳記念館
より借用）
実物資料 1 点（当館所蔵）
- ・会期中の入館者 16,892 名（有料 13,649 名
無料 3,243 名）
- ・入館料収入 669 万 1415 円
- ・新聞・ミニコミ誌への掲載：8 紙 17 回
[7/29 常陽新聞、8/4・8/6 茨城新聞、8/13 常陽リビング、8/14 朝日新聞・東京新聞、
8/16 読売新聞、9/1 毎日新聞、8/12～8/24 茨城新聞コラム連載（全 7 回）
「ezpress.」9・10 月号掲載]
- ・テレビ等放送：3 社
[NHK ニュース茨城版 9/17（土）～9/20（火）
6：55・7：55・12 時台の 3 回放送（ケーブルテレビでも放送あり）
つくばケーブルテレビ 9/26（月）～10/2（日）
「ACCS ニュース」内約 2 分 1 日 5 回放送。
J:COM「いいじゃん！」内「ちょっとってみっぺ」のコーナー約 2 分 1 日 2～3 回放送。]
- ・グッズ販売：売り上げ総数 177 点 83,260 円
絵はがき（500 円）98 点 一筆箋（420 円）28 点 クリアファイル（260 円）30 点
卓上カレンダー（700 円）21 点（全て土門拳記念館より委託販売）
- ・ギャラリートーク：8/6（土）参加 32 名、9/17（土）参加 20 名 合計 52 名



(2) 所蔵資料展事業

① 第 3 回所蔵資料展「予科練生の資料館—銀田コレクション」展

元甲飛第 15 期銀田捷氏が戦後 50 年かけて収集し、自宅の二階に開いていた「銀田予科練資料室」にあった資料の一部を展示しました。

- ・日 時 平成 23 年 4 月 26 日（火）～
6 月 12 日（日）
[公開 55 日間]
- ※東日本大地震により約 1 ヶ月遅れて開催
- ・展示資料点数 205 点（うち図書 141 冊）



※平成 15 年 6 月に受け入れた銀田資料 794 点のうちの一部

・期間中の入館者：5,661 名（有料 4,640 名 無料 1,021 名）

・新聞・ミニコミ誌への掲載：4 紙 5 回

[5/8 茨城新聞、5/8 読売新聞、5/13 常陽新聞、5/14 常陽リビング、
6/9 常陽リビング]

② 第 4 回所蔵資料展「重キ務メヲナシオヘテー除隊記念品」展

当館に寄贈されている明治期の除隊記念盃のコレクションを中心に、館所蔵陸軍関係資料や茨城県内の陸海軍施設地図などを展示しました。

・日 時 平成 23 年 11 月 29 日（火）～
平成 24 年 3 月 25 日（日）

[公開 97 日間]

・展示資料点数 154 点

・期間中の入館者：9,788 名（有料 7,794 名
無料 1,994 名）

・新聞・ミニコミ誌への掲載 4 紙 5 回

[1/1 常陽リビング、1/6 常陽新聞、

1/14 茨城新聞、

ミニコミ誌『ezpress.』1 月号・2 月号]



(3) 定期展示解説 毎週土・日の 14:00～（平成 23 年 5 月から実施）

展示解説員が、展示の内容や見どころを約 1 時間で
わかりやすく説明しています。

91 回実施 参加者総数 993 名 1 回平均 10.9 名



3. 教育普及事業

(1) おはなしおさんぽの会

第 1 回 7/16（土）10:30～ 14:00～ 当館ラウンジ

幼児～小学生低学年を対象に、平和を考える当館所蔵の絵本、
かみしばいの読み聞かせを行いました。（延参加者 48 名）



第 2 回 3/24（土）10:30～ 14:00～ 当館ラウンジ

平和を考えるかみしばい読み聞かせと昔の遊びを紹介しました。（延参加者 60 名）

(2) 元予科練習生のお話し会

第1回「激闘 予科練」橋原政雄氏（丙飛12期）

平成23年7月17日（日）14:00～

「重巡洋艦：愛宕の最後」と題し、乗組員であった橋原政雄氏（丙12期）から戸張礼記氏（甲14期）が当時の話を伺う、2人の元予科練生による対談形式で行いました。（参加者81名）



第2回「私にとって予科練とは」池田龍雄氏（甲飛13期）

平成23年11月3日（木）14:00～

佐賀県ご出身の池田龍雄氏は、甲飛13期生として鹿児島入隊後、岩国などを経て、霞ヶ浦海軍航空隊にて93中練（赤とんぼ）特攻訓練中に終戦をお迎えになった。当時、下士官である1等飛行兵曹に昇進していたため、戦後に入学された佐賀師範学校を追放となり、その後絵画を中心に前衛芸術の分野で地位を築いてこられた。戦争の矛盾を鋭く指摘され、やはり戦争は2度とあってはならない、そして「生きることは素晴らしいこと」とのメッセージをいただきました。（参加者数47名）



(3) 阿見の歴史講演会

第1回「阿見大空襲の悲劇」赤堀好夫氏（当館歴史調査委員）

平成23年7月24日（日）14:00～

昭和20年6月10日に土浦海軍航空隊を目標とした大規模な空襲について、当時を知る方々の証言、および遺跡調査の結果などから、空襲の実態に関するデータが提示され、空襲の悲惨さを通して戦争のない社会作りへのメッセージをいただきました。（参加者数23名）



第2回「連合艦隊司令長官山本五十六元帥が
阿見町に残したもの」

井元潔氏（当館歴史調査委員）

平成23年11月20日（日）14:00～

霞ヶ浦海軍航空隊に副長兼教頭として赴任していた山本五十六（日本海軍連合艦隊司令長官）の

エピソードが当時の状況を熟慮した上での推論と共に紹介された。在任中、「土浦花火大会創設」「霞ヶ浦神社創設」など数々の仕事を山本五十六は成し遂げています。（参加者数118名）



(4) 予科練平和記念館学習会 ～戦跡を巡る～

平成 23 年 8 月 7 日 (日) 9:30 ～ 12:30

町内に点在する海軍航空隊関連の遺跡などをバスで巡りながら、当館学芸員が解説を行いました。

(参加者数 23 名。県外、町外からも含め 37 名の申込み。バス定員により抽選)

※参加費用は無料。参加の記念に絵はがきを進呈。

※今回のルートは阿見町内で設定。

自衛隊武器学校→海軍道路桜並木→茨大農学部

(方位盤跡、国旗掲揚台跡、旧本部庁舎階段親柱、プール跡、皇太子殿下お手植えの松)

→旧貯水塔 (サンエイ糖化)→旧隊門 (阿見小学校)→旧落下傘倉庫 (キリン協和フーズ)

→掩体壕→旧格納庫 (霞ヶ浦駐屯地)→旧霞ヶ浦神社社殿 (阿彌神社)



(5) レコード鑑賞会

1932 年 (昭和 17 年) に製造されたレコードプレーヤーで、昭和初期のレコードを曲に関するエピソードや当時の世相を紹介しながら鑑賞していただきました。

第 1 回 平成 23 年 10 月 22 日 (土)

17:00 ～ 18:00 (参加者数 24 名)

※曲目

- ①蘇州夜曲 ②そよかぜ ③リンゴの唄 ④愛馬進軍歌 ⑤ヨカレン節
⑥決戦の大空へ ⑦若鷺の歌

※歴史調査委員・戸張礼記氏 (元甲飛 14 期生) による戦時中の世相紹介あり。

第 2 回 11 月 12 日 (土) 17:00 ～ 18:30. (参加者数 27 名)

※曲目

- ①蘇州夜曲 ②リンゴの唄 ③ヨウソロ節 ④愛馬行
⑤宵待草 ⑥誰か故郷を想わざる ⑦決戦の大空へ
⑧若鷺の歌

※第 2 部として、歴史調査委員・戸張礼記氏による「我が心の歌」の紹介。

- ①モンテンルパの夜は更けて ②皇国の母 ③麦と兵隊



(6) 中学生職業体験受入

(ア) 期間 平成 23 年 8 月 2 日 (火) ～ 4 日 (木) 各日 8:30 ～ 15:20

(イ) 受講者 阿見町立竹来中学校 2 年生 男子生徒 2 名

(6) 中学生職業体験受入

- (ウ) 内 容
- | | |
|------|---------------------------------|
| 1 日目 | オリエンテーション
予科練平和記念館・雄翔館見学 |
| 2 日目 | 接遇研修 展示解説員業務体験 |
| 3 日目 | 学芸員業務体験（資料整理・掛
け軸の扱い方、ブログ更新） |



(7) 映像記録保存事業

予科練出身者、関係者 4 名にインタビューし、映像で記録保存しました。

- ① 伊藤 進氏（予科練 1 期生 79 名のひとり、
山口県岩国市在住）
- ② 吉岡玉子氏（新町「亀の湯」にて、予科練生など
の様子を見ていた方。土浦市在住）
- ③ 角田和夫氏（乙飛 5 期。中国戦線からラバウル
航空戦、特攻まで、戦争を戦い抜い
た方。かすみがうら市在住）
- ④ 岡崎圭一郎氏（甲飛 13 期。記念館 2 室前写真の日
本刀を手入れしている予科練生ご本人。
山形にて特攻訓練中、終戦を迎える。
東京都杉並区在住）



4. 広報事業

(1) 関係機関への訪問

1～3 月、県内及び近県等の関係団体を訪問し PR を行いました。

自衛隊広報センター（陸自朝霞、海自下総基地など）、自衛隊地方協力本部、
市町村・教育委員会（公民館、遺族会等）、宿泊施設（土浦周辺ホテル）、観光施設等。

(2) 広報あみ

イベントやお知らせ、事業実績などを毎月紹介しました。

(3) 記者クラブ、常陽リビング、情報誌、テレビなどへの情報提供。

掲載回数：新聞 29、雑誌 5、ミニコミ誌・情報誌等 14、テレビ 4 など。

(4) 観覧料の割引提携（各種カード等の冊子、HP への掲載による広報）

JAF カード特別優待、劇団「楽縁舞夢」公演、町イベント等。

(5) ホームページのリニューアル

周辺観光情報、展示会紹介、子ども向けページや一部の英文紹介。

更新回数：館長日記（15 回）、ブログ（65 回）、新着情報（44 回）。

(6) 観光券契約

新たに中小旅行業者の加盟する㈱ 全旅と契約しました。

(7) 寄附金の状況について

年度	件数	金額(円)	備考
～H21	2,194	58,455,844	
H22	36	2,734,350	
H23	14	336,000	
合計	2,244	61,526,194	

(8) 参考 売店運営

阿見町商工会

年間売上げ 約 5,880 千円

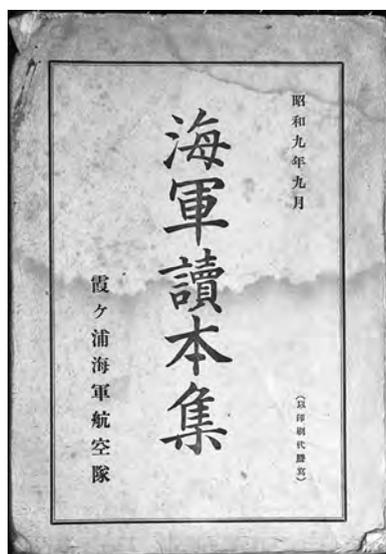
5. 資料収集・調査研究事業

※予科練や海軍に関する実物資料で未収蔵のものに限定して収集を行いました。

- ・寄贈図書資料約 2,300 冊整理・データ化。
→平成 25 年度からラウンジパソコンで検索できるよう整理中。
- ・資料データ化継続中（所蔵資料約 12,000 点の詳細なデータ化）

○資料収集状況

- ・収集点数
H22 年度まで 12,161 点
H23 年度 358 点 (46 件)
- ・平成 23 年度に収集した主な資料
「土浦海軍航空隊の正門の看板」
「昭和初期のレコード」など



6. 予科練平和記念館歴史調査委員の活動について

5名の調査委員により、予科練および海軍航空隊に関する調査研究を行いました。

- (1) 活動日数 240日（週1回開催）
- (2) 調査研究内容（主なもの）
 - ・阿見町周辺地域防空戦闘に関する調査
 - ・土浦海軍航空隊空襲被害に関する調査
 - ・海軍飛行予備学生に関する調査
 - ・人間魚雷「回天」に関する調査
 - ・「山本五十六が阿見町に残した業績」に関する調査
 - ・阿見町の兵役に関する調査
- (3) 教育普及事業
 - ・講演会の実施、来館者への展示案内。



7. その他

- (1) リーフレット英語版の作成（協力：阿見町国際交流協会）
- (2) 劇団「楽園舞夢」旗揚げ公演「葦の会」考証、資料提供。
（予科練を題材にした演劇開催への協力）
- (3) 茨城県博物館協会、桜川市文化生涯学習課などへの原稿寄稿。
- (4) NHK朝の連続テレビ小説「おひさま」考証、資料提供。

※ 節電の取り組み

- ① 照明の消灯 エントランスホール、ロビー、事務室、夜間の街灯・ベンチ。
- ② 空調の適正使用 事務室の実際温度、展示室客数に応じた設定（都市ガス）。
- ③ その他 検索システム：サーバーを閉会后に切るなど待機電力の減少。

8. アンケート結果（例）

【10歳代】

- ・戦争の苦しみなどが分かったところもあります。展示は十分に理解できました。（男性）
- ・正直言って予科練というものを知らなかった。自分たちと同世代の若者たちの志の高さに感動した。若者にとって将来成すべきことは何か、これを考えさせてもらった。（男性）
- ・特攻隊の自ら敵軍に突っ込んでいく映像がもの凄く印象に残り、泣きそうになってしまった。（女性）
- ・予科練生が書いたノート（全ページ見られた）展示物が印象に残り、昔にどんな勉強をしていたのかが分かった。（女性）
- ・映像があった部屋が印象に残りました。とても生々しく過去の出来事が伝わってきました。（女性）
- ・特攻の映像が心に沁みました。私と同世代の人間が60余年前に父母を残して日本の為に殉じたことに深く感動し涙が出て来ました。（男性）
- ・特攻隊として自分の命を捧げた人たちの勇気はすごいと思う。私が生きていることは、そのような人たちのおかげです。これから命を大切にします。（女性）

【20歳代】

- ・最後に見た空爆映像の人間自身を使って突撃する人間爆弾が衝撃的で、思わず涙でした。（女性）
- ・特攻隊員の方々の遺書を見て、胸が締め付けられるような思いだった。日々大切に生き、より良い日本社会を作っていかなければならないと思った。（男性）
- ・実際の体験者の映像などから、ひしひしと戦争の悲しみや激しさが伝わってきました。（男性）
- ・生活している場の映像や、体験者の肉声などが印象に残りました。二度とこのような戦争を起こしてはいけないと思います。胸がいっぱいです。（女性）
- ・予科練習生出身者の手紙を読んで、自分と変わらない世代の人達との共通点を数多く感じつつも、来るべき時に「死」を覚悟するという姿は、今の自分には到底出来そうにない。せめて自分が出来るのは尊い犠牲を忘れない心を保つことである。（男性）

【30歳代】

- ・以前から特攻隊について知りたく思っていました。特攻隊の遺書などがとても心に残っています。今まで飛行機だけだと思っていましたが、ボートや潜水艦がある事を知り、おどろきました。（女性）
- ・空襲の映像と証言が生々しく、本当に戦争について考えさせられました。様々な角度から予科練のことを知ることができ、戦争体験者の方たちがいなくなった時代にも永く人々に知らせていきたいことだと感じました。（女性）
- ・出撃前に父母に宛てた最後の手紙を見て、どのような思いで書いたのだろうかと思うと胸がつまりました。（男性）

【40歳代】

- ・映像や写真などは分かりやすく、共感しやすいです。また、亡くなられた方が身に付けておられたものなどを見て、胸がつまる思いです。（女性）
- ・映像など分かりやすかった。実物が多く、寄贈された方々がこれまで大切に保管されてきたのだろうと思いました。（女性）
- ・テレビや人づてに話は聞いていましたが、あらためて戦争で犠牲になった方々がいて今の日本があり、私達が幸福に生活していただけることを感じました。これからも考えていきたいと思いました。（男性）

【50歳代】

- ・もっと多くの資料があっても良いと思いました。(中国南京にある戦争博物館も行ったことがあります
が…) 戦争は良い事ではありません、悲惨な事ばかりです。そのことをもっと強烈にアピールしても
良いと思います。(女性)
- ・我が家のルーツ探しの旅の帰りに寄りました。まだほんの若者だった人たちの犠牲の上に、我々の生
命があることを忘れてはならないと肝に銘じたい。(女性)
- ・映像を見ると身につまるものがある。戦争を体験してないが、自分が生まれる10数年前の出来事とは
思えない。(女性)
- ・優秀な若者を奪った戦争は残念でたまらない。二度とあってはならない。人災なのだから。(女性)
- ・18才の子どもが大学に入ることになり来ました。とても胸が痛くなります。大切な子どもの将来の姿
を見られなかった親の気持ちを思うととてもつらいです。平和を守らなくてはと思います。(女性)
- ・各々印象に残っていますが、実筆のお手紙や遺書を見てとても胸が熱くなりました。とてもきれいな
字で丁寧に書かれていたので感心しました。飛行機以外にも特攻作戦が数々あったことも初めて知り
驚きました。今の幸福が多くの子の命が散った上にあることを深く心に刻みます。(女性)
- ・遺書に書かれた大人びた内容や、しっかりとした文字の書き方を見て、戦争で失うにはもったいない
人たちだったとつくづく思った。(女性)
- ・戦争を知る人がだんだん少なくなっていく中で、もっと今の若い人たちにってもらえるような展示を
お願いします。(女性)
- ・戦争の語り部がだんだんとなくなっていく現在、戦争のうわさ、戦争美化、右翼化を防ぐ企画を長く
これからも続けてほしいと思います。(男性)

【60歳代】

- ・私は終戦の年に生まれ、話には聞いていたが、実際に戦争のむごさを映像や遺品を通して知ることが
できました。(女性)
- ・戦争の現実をもっと伝えてほしい。平和への戦略を。武力によって平和はこない。(男性)
- ・胸が一杯です。父が海軍に居たのに詳しいことは一切語らなかったから、実際はどうなのかと思い来
館しました。(女性)
- ・学校教育の場においても戦争と平和について子どもたちに伝えてほしい。(男性)

【70歳代】

- ・当時の状況が手にとるように理解できる資料が展示されて心を打たれました。(女性)
- ・昔を思い出し胸が一杯。命の大切さを思いました。戦争は理由を問わず絶対反対。(女性)
- ・若い命が沢山失われたことは、今更ながら残念でたまりません。今日あるのも、こうした犠牲の上
にあるおかげと感謝致します。(女性)
- ・私が5歳の頃、予科練生を自宅に日曜日のたび招いておりました。私には彼らはとても大人に見えま
した。今日は涙ながらに拝見いたしました。(女性)
- ・もっと音声を利用して隊員の手紙等を知らせてもらいたい。外部に対して、この記念館のPRがもっと
もっと必要です。(男性)
- ・私も当時の苦しい戦争時代に生まれてきました。予科練生も国民学校に来て様子を知ってました。平
和な時代が続くことを願うこと、さらに強く思いました。(男性)

予科練平和記念館 解説シート ①

ようこそ、予科練平和記念館へ！

ここは、戦争の歴史と、その時代に海軍パイロットをめざした少年たち＝予科練生について知ることができる場所です。

館内でのやくそく



- ① 静かにみてください
- ② 走らないでください
- ③ メモはえんぴつをつかってください

「予科練」って何ですか？



「予科練」とは、「海軍飛行予科練習生」を短くしたよびかたです。

20世紀のはじめごろから、世界中で飛行機のかいはつが進み、パイロットがたくさん育てられていました。

日本でも世界におくれないようにするため、当時の海軍がパイロットの基礎訓練をする制度をつくりました。これが「予科練」です。

「予科練」の試験は14才半から受けることができました。今の中学2年生から高校生ぐらいの少年たちがたくさん受験しました。

予科練の訓練は、3年～6ヶ月以内までと、入隊するコースや年代によってさまざまです。1930（昭和5）年にははじめてから、太平洋戦争が終わるまでの約15年間に、全国から24万人が予科練に入りました。このうち戦争に参加したのは約2万4千人おり、80%にあたる約1万9千人の人が亡くなっています。

ほとんどの予科練生は戦争がはげしくなってから入隊したので、とちゅうで訓練が中止されてしまいました。彼らはぼうくうごうをつくったり、日本本土を守るための特別攻撃隊となったりして終戦をむかえました。

冬はこん色！
夏は白色！
頭は坊主！



ぼくたち予科練生の制服は、短いジャケットに7つの金ボタン！
かっこいいでしょう？

くんれんのようなすが映画になって大ヒットしたので、ぼくたちはこどものあこがれだったんです！

でもほんとうは命の危険ととなりあわせでした。昔は20才以上の男の人はみんな兵隊のくんれんを受けることが決められていました。

きねんかんはどんなところ？ 編

予科練平和記念館の☆ヒミツ☆



？ どうしてこんな形をしているの？

館を上からみるとでこぼこしています。世界地図に描かれている大陸と海をイメージしてデザインされているからで、予科練平和記念館のマークにもなっています。

また、館内のどこにいても予科練生たちがあこがれた空が見えるように、まどがたくさんあります。ここからみえる空は、昔予科練生たちがみていた空とかわらないかもしれません。

？ どうして展示室が7つあるの？

予科練生の制服に七つのボタンがついていたからです。この7という数には、世界の七大陸・七大洋をかけたまわって活躍してほしいというねがいと、「日月火水木金土」（土日がない＝休みがない）きびしい訓練の意味があります。

知ってる？

七大陸・・・アジア大陸・ヨーロッパ大陸・北アメリカ大陸・南アメリカ大陸・アフリカ大陸・オーストラリア大陸・南極大陸
七大洋・・・北太平洋・南太平洋・北大西洋・南大西洋・インド洋・北極海・南極海



館内からの空も要チェック！
飛行機やヘリコプターが飛んでいるのもみえます。
展示室もそれぞれテーマにそって全部つくりがちがっていますので、どうちがうかを感じてみてください。

館のとなりにある陸上自衛隊土浦駐とん地は、昔「土浦海軍航空隊」という予科練の訓練基地でした。全国19か所あった予科練の訓練基地の中心になっていたところなんです。



時代	年	年号	できごと
江戸	1867	慶応3	大政奉還
明治	1871	明治4	廃藩置県が行なわれる
	1877	明治10	西南戦争はまる
	1889	明治22	大日本帝国憲法がたされる
	1894	明治27	日清戦争はまる
	1904	明治37	日露戦争はまる
	1910	明治43	韓国併合
大正	1914	大正3	第一次世界大戦はまる
	1923	大正12	関東大震災
昭和	1929	昭和4	ウォール街で株価大暴落 世界恐慌 ツェッペリン伯号が霞ヶ浦にくる
	1930	昭和5	予科練の訓練がはまる
	1931	昭和6	満州事変
	1937	昭和12	日中戦争はまる
	1939	昭和14	ナチドイツがポーランド侵攻 第二次世界大戦はまる
	1941	昭和16	日本がハワイ真珠湾攻撃 太平洋戦争はまる
	1942	昭和17	アメリカが原子爆弾の開発をはめる
	1943	昭和18	日本軍、各地で玉砕が続く
	1944	昭和19	特攻隊が出撃する
	1945	昭和20	日本への空襲が激くなる ドイツ無条件降伏 ヒロシマ・ナガサキに原子爆弾が落とされる 日本がポツダム宣言を受諾 太平洋戦争が終わる
	1950	昭和25	朝鮮戦争はまる
	1964	昭和39	東京オリンピック開幕
	1970	昭和45	大阪万博がひらかれる
1972	昭和47	沖縄が日本に返還される	
1983	昭和58	東京ディズニーランドができる	
1987	昭和62	バブル景気	
平成	1989	平成元	年号が「平成」になる

予科練が
あったの
はこの時

かっこよくしてく
れよ！



まかせとけ！



大福……いいにおいだ……
早く食いたい……



- 館内にある大きな予科練の写真は、写真家の土門拳（1909～1990）がさつえいしたものです。
- あまり発表されなかったため「まぼろしの写真」といわれています。
- 1944（昭和19）年に、土門拳は予科練生と2ヶ月近く一緒に生活しながら写真をとりました。かれらのいきいきとした様子がよくとらえられています。

ひけー！
がんばれー！

まけるなー！
いけー！



マンガ描くの
得意だよ

うまいなー……

予科練平和記念館 解説シート ②

① 展示室1 入隊 あこがれの予科練へ

- 予科練の入隊試験は14才半から受けられます。一次試験(身体けんさ・学力テスト)・二次試験(適性けんさ・面接など)があり、むずかしい試験でした。第1期生の合格倍率はなんと73倍です。
- 戦争がはじまると、予科練生をたくさんぼしゅうするため、かっこいい七つボタンの制服にかわり、宣伝のための映画もつくられました。
- 当時日本の領土だった現在の台湾と朝鮮半島からも100人の予科練生が誕生しました。



試験問題や合格証も展示しています。



昔の小学校の通信簿「甲・乙・丙」で成績がつけられました。この予科練生は全部「甲」です。



茶色のほうが夏服です。本当は真白でしたが、攻撃されてしまうため目立たない色になりました。



展示室は①から⑦まであります！



⑥番と⑦番の展示室では映像が流れます。暗いところで大きな音がなりますので、気をつけてみてください。

② 展示室2 訓練 きびしい訓練の毎日

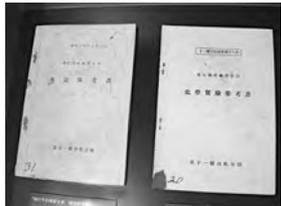
- 予科練ではパイロットになるための基礎訓練をします。飛行機のりろんやつくりを学び、たいそうや水泳、すもうやマラソンなどいろんな種目で体をきたえました。
- 軍隊で必要なことだけではなく、国語や英語、数学、化学、物理などふつうの学校で学ぶ科目も勉強しました。今の高校生から大学1~2年生ぐらいのレベルの勉強をしたそうです。
- みじかい間にたくさんのことを勉強するので、いつもテストがありました。一人ができないと、班の全員が「バッター」という太い棒でお尻をたたかれることもありました。



授業のようすわるしせいも注意されます



霞ヶ浦でボートの訓練おしりがいたくなります



5メートルの飛び込み台



夜の自習時間こっそり手紙を書いたりもします

③ 展示室3 心情 予科練生のきもち

- 家族とはなれてきびしい訓練をしている予科練生にとって、ふるさとからの手紙はとてうれしいものでした。
- 予科練生が手紙を送るときには「検閲」を受けました。軍のひみつが書かれていないか、弱音をはいていないかなどが調べられました。



ぼく福山資です。お父さんが亡くなったので、進学しないで予科練にはいりました。手紙が本になっているのでみてください。

④ 展示室4 飛翔 空へ

- ① 予科練生は操縦員(パイロット)か、偵察員(ナビゲーター 基地と通信をしたり、進む方向を決めたりする)の進路にわかれます。
- ② 予科練を卒業すると「飛行練習生」になり、訓練用の飛行機に乗ります。約6ヶ月でむずかしい飛び方までできるようになります。
- ③ 卒業した人たちは日本海軍の主力となって戦いました。太平洋戦争のきっかけとなった真珠湾攻撃(1941)に出撃した人のうち、約40%が予科練の卒業生でした。



空と雲をイメージしています。
練習機の布もあります

訓練で乗る93式
単筒練習機
骨組みが木で、
まわりに布がは
られています。



⑤ 展示室5 交流 思い出と戦時下の暮らし 零戦(ぜろせん)



予科練の学食やク
ラブを再現してい
ます

- ① 日曜日に隊の外に出ておなかいっぱい食べたり、「クラブ」とよばれた民家で遊んだりすることが予科練生の楽しみでした。
- ② 戦時中は、生活のすべてが戦争のために自由をうばわれました。食べるものも着るものも不足して、子どもたちは竹やりの訓練をしたり、軍需工場(軍で使うものをつくる工場)にはたらきに行ったりしました。

⑥ 展示室6 窮迫 空襲の恐怖

- ① 戦争が激しくなって、日本の大きな都市はほとんど空襲を受け、たくさんの方が亡くなりました。1945(昭和20)年6月10日、土浦海軍航空隊にも、B-29爆撃機によるおおきな空襲がありました。
- ② この日は日曜日で、予科練生だけではなく、町の人や面会にきた家族なども空襲にまき込まれてしまいました。わかっているだけでも300人以上の方が亡くなっています。



天井とかべに
空襲のえいぞ
うがうつります



B-29 からおとされた爆弾のは
へん

⑦ 展示室7 特攻 戦時下のひげき



白い光は、戦争で亡
くなった予科練生
の数をあらわしま
す

- ① 戦争が激しくなると、日本の飛行機やパイロットの数はどんどん足りなくなりました。少ない力で確実に攻撃するため、「特別攻撃(特攻)」作戦が行なわれました。
- ② 「特攻」とは、爆弾をつけた飛行機や魚雷に乗って体当たりする、自分の命とひきかえにした攻撃方法です。予科練の卒業生も、2800人というたくさんの方が「特攻」で亡くなりました。みんな今の大学生ぐらいのねんれいで、夢も未来もたくさんあった人たちです。



人間魚雷「回天」と搭乗員たち

20世紀は「戦争の世紀」と言われています。
この100年間に、世界中で日本の人口と同じぐらいの数の人が戦争や紛争で命を落としているからです。
争いのない世界にするにはどうしたらいいのでしょうか。
みなさんも考えてみてください。

『若鷺の歌』

※このページの無断転載禁止

作詞 西条八十 作曲 古関裕而

- | | |
|--|---|
| ① 若い血潮の 予科練の
七つボタンは 桜に錨
今日も飛ぶ飛ぶ 霞ヶ浦にや
でっかい希望の 雲が湧く | ③ 仰ぐ先輩 予科練の
手柄聞かたび 血潮が疼く
ぐんと練れ練れ 攻撃精神
大和魂にや 敵はない |
| ② 燃える元気な 予科練の
腕はくろがね 心は火玉
さっと巣立てば 荒海越えて
行くぞ敵陣 なぐりこみ | ④ 生命惜しまぬ 予科練の
意気の翼は 勝利の翼
見事轟沈した 敵艦を
母へ写真で 送りたい |

「若鷺の歌」は映画『決戦の大空へ』の主題歌。

西条八十と古関裕而は土浦海軍航空隊に一日入隊し、「若鷺の歌」はこの時の体験を生かして作られた。当初は長調のメロディで構想されていたが、土浦へ向かう途中、古関が短調のメロディを思いつき、これら2つの曲を予科練生に直接聴いてもらったところ、現在知られている短調のメロディが支持された。

映画『決戦の大空へ』は、予科練に憧れた地元の少年の成長をテーマにした映画で、土浦海軍航空隊にて撮影が行われ、予科練生も多数エキストラで出演した。

昭和18年（1943）9月に封切られると、主題歌「若鷺の歌」とともに大ヒットし、「予科練」の名を一躍有名にした。この映画を見て予科練に憧れ入隊した少年も多かったと伝えられるが、まさに予科練生を募集するための宣伝目的で作られた映画だった。

『決戦の大空へ』

作詞 西条八十 作曲 古関裕而

- | | |
|---|--|
| ① 決戦の空 血潮に染めて
払えど屠れど 数増す敵機
いざ征け若鷺 翼をつらね
奮うはいまぞ 土浦魂 | ③ 敵鷺来る 皇土をめざし
憎さも憎き かの星条旗
いざ衝け肉弾 火を吐け機銃
墜ちゆく敵機は 嵐の落葉か |
| ② 密雲くぐり 海原見れば
白波蹴立つる 敵大艦隊
いざ射て逃がすな 必中魚雷
とどろく轟音 揚るよ火柱 | ④ 思い出たのし 白帆の故郷
鍛えしこの技 攻撃精神
風切る翼の 日本刀に
刃向う敵無し 土浦魂 |

予科練平和記念館建築概要

1. 建築概要

- ① 名称：阿見町予科練平和記念館
- ② 建築主：阿見町長 川田弘二
- ③ 建築場所：阿見町廻戸5-1 他42筆
- ④ 主要用途：資料館
- ⑤ 工事種別：新築
- ⑥ 地域地区：市街化調整区域
- ⑦ 敷地面積：15,583.92 m²
- ⑧ 建ぺい率：60%
- ⑨ 容積率：200%
- ⑩ 建築面積：1,468.04 m²
- ⑪ 延床面積：1,409.08 m²
- ⑫ 高さ：最高点 8.371m , 軒高 7.935m
- ⑬ 構造：鉄骨造平屋建
- ⑭ 開発：都市計画法29条の適用除外 都市計画省令60条証明申請
- ⑮ 工事費：設計費 53,970 千円（展示基本・実施設計含む）
建築工事費 504,586 千円
外構費 135,450 千円
- ⑯ 設計者：建築設計（株）乃村工藝社（株）吉村靖孝建築設計事務所
展示設計（株）乃村工藝社
- ⑰ 施工者：建築－松浦建設（株） 電気－（株）丸山電気工事
設備－伊奈工業（株） 展示－（株）乃村工藝社



2. 計画概要

(1) 基本方針

- ①全体配置計画：隣接する公園との連携に配慮し、適切な駐車場配置を行い、歩行者－自動車との動線分離を出来る限り行う。
- ②災害時の要求性：災害時の一時避難所としての利用も想定する。
- ③環境配慮：外光を多く取り入れ、照明のランニングコストを抑える。

(2) 配置計画

隣接する廻戸近隣公園との駐車場を確保するため、国道125号線沿いに駐車場を確保し、館をその背後に配置させることにより、歩行者のアプローチを長く確保でき、演出効果を期待させる配置としている。

予科練平和記念館では、予科練や戦史に関する論文・資料研究などの寄稿をお願いしております。詳細は、予科練平和記念館までお問い合わせ下さい。

予科練平和記念館年報 第1号

発行日	平成24年10月
編集・発行	予科練平和記念館 〒300-0302 茨城県稲敷郡阿見町廻戸5-1 tel 029-891-3344 fax 029-888-2470 http://www.town.ami.ibaraki.jp/ yokaren/index.html
印刷	(株)総合印刷新報社

予科練平和記念館

住所：〒300-0302

茨城県稲敷郡阿見町大字廻戸（はさまど）5番地1

TEL 029-891-3344

FAX 029-888-2470

E-mail yokaren-ofc@town.ami.lg.jp

ご利用案内（常設展開催時）

○開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

○休館日：月曜日（祝日の場合は翌日休館）、年末年始

○入館料：大人500円（団体400円）

小中高生300円（団体240円）

町内小中学生は無料